

5.

国際研究ネットワーク

2019 年度

国際研究ネットワーク構築概要

- 1) 海外研究交流
- 2) 国際共同研究プロジェクト
- 3) JAWS・AIT
- 4) INTPART プロジェクト
- 5) 国内外招聘研究者一覧

▶ 2019 年度国際研究ネットワーク構築概要

各国の研究機関・研究者との国際研究・交流ネットワーク

ジェンダー研究所は日本におけるジェンダー研究の中核的な役割を担いながら、国内・海外の研究機関及び研究者らと広くネットワークを構築してきた。定期的に海外から優れた研究者を招聘するほか、海外からの若手研究者の受入れと日本からの派遣、国際共同研究に積極的に取り組んでいる。2019 年もアジア、ヨーロッパ、アメリカの研究者らと交流を進めた。日本ーアメリカ女性政治学者の交流（JAWS）プログラムに参加した若手研究者は発表原稿を論文に発展させてアメリカの学会誌に投稿した。また、ノルウェー科学技術大学のジェンダー研究センターと研究・教育面での交流を始めた。ジェンダー研究所のメンバーらがノルウェーを訪問し研究発表も行った。

ジェンダー研究所を拠点とする国際ジェンダー研究ネットワークイメージ



ヨーロッパ	アジア・オセアニア	日本国内	北米
ノルウェー: ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センター/オスロ大学 デンマーク: オールボー大学/ロスキレ大学 フランス: リール大学/パンテオン・アサス大学/ソルボンヌ・ヌーヴェル大学 イギリス: ロンドン大学/エセックス大学/オープン大学 招聘研究者 6 名 (118 頁参照)	台湾: 国立台湾大学/台湾国立政治大学/中央研究院近代史研究所 韓国: 釜山大学/韓国ジェンダー政治研究所 /ソウル大学日本研究所/ソウル大学国際問題研究所/「East Asian International Relations Theory」研究会 香港: 香港浸會大学社会科学学院・文学院/ タイ: アジア工科大学院大学 (AIT) インドネシア: スラバヤ大学 /Migrant CARE /インドネシア大学戦略的国際研究大学院ジェンダー研究センター 招聘研究者 7 名 (118 頁参照)	政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (Gender, Diversity and Representation (GDRep)) 日本政治学会「ジェンダーと政治」研究会 国際移動とジェンダー研究会 現代規範理論研究会 Transnational Commercial Surrogacy and the (Un)Making of Kin 研究会 招聘研究者 21 名 119 頁参照	米国: 日本ーアメリカ女性政治学者シンポジウム (Japan-America Women Political Scientists Symposium, JAWS) /American Political Science Association/ワシントンカレッジ/アメリカン大学/ブリッジポート大学 《特別招聘教授》 米国: Jan Bardsley (ノースカロライナ大学チャペルヒル校) 招聘研究者 4 名 (119 頁参照)

1) 海外研究交流

■ジェンダー研究所所属の研究者が 2019 年度に研究交流または共同研究をした海外の研究者

<アジア・オセアニア>

黄長玲 (Chang-Ling Huang) (国立台湾大学教授)

【担当】申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

「東アジアにおける政治とジェンダー」研究プロジェクトの研究協力者。韓国ジェンダー政治研究所との共同研究の台湾国会議員アンケート調査を実施。(本報告書 18 頁参照)

楊婉瑩 (Wan-Ying Yang) (台湾国立政治大学教授)

【担当】申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

「東アジアにおける政治とジェンダー」研究プロジェクトの研究協力者。韓国ジェンダー政治研究所との共同研究の台湾国会議員アンケート調査を実施。研究成果発表・論文の執筆。(本報告書 18 頁参照)

Ah-ran Hwang (釜山大学教授)

【担当】申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

韓国研究財団一般共同研究「議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」研究プロジェクトの共同研究を実施。研究成果発表・論文の執筆。

Jinock Lee (韓国ジェンダー政治研究所研究委員)

【担当】申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

韓国研究財団一般共同研究「議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」研究プロジェクトの共同研究を実施。研究成果発表・論文の執筆。

Soo-hyun Kwon (韓国ジェンダー政治研究所研究委員)

【担当】申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

韓国研究財団一般共同研究「議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」研究プロジェクトの共同研究を実施。研究成果発表・論文の執筆。

(研究交流または共同研究をした海外の研究者)

<アジア・オセアニア>

游鑑明 (中央研究院近代史研究所研究員)

【担当】大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

国際シンポジウム「踊る中国：都市空間における身体とジェンダー」(2019 年 6 月 22 日)において、近現代中国における「踊る」女性の身体をめぐって討議を行った(本報告書 53 頁参照)

Yao-Tai Li (香港浸會大学社会科学院助教)

【担当】大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

社会科学院の所属教員らの参加するセミナーにおいて、中国と香港の移住家事労働者をめぐる問題について研究報告を行った。

Chia-Ling Wu (国立台湾大学准教授)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

2019 年、国立台湾大学の Chia-Ling Wu 氏が Kim Koo Foundation から得た研究資金をベースに、Global Asia Research Center (GARC)が主体となって、アジアの生殖医療をめぐる問題を研究する研究者が集まり、国際シンポジウム New Reproductive Technologies and Global Assemblages: Asian Comparative Perspectives が 2019 年 5 月 17 日と 18 日に台湾大学で開催された。シンポジウムにはアメリカ、韓国、デンマーク、オーストラリア、日本から計 12 名の研究者が集まり、その一人として参加した。そして代表者である Wu 氏を中心に参加した研究者らと共同執筆して書籍の出版を検討中。

Khanis Suvianita (スラバヤ大学非常勤講師)

【担当】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

科学研究費・基盤研究 C「インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合」(研究代表者・中谷潤子、大阪産業大学)における現地共同調査。国際学会でのパネル共同報告(本報告書 39 頁参照)

Anis Hidayah (Migrant CARE 移民研究センター長)、Wahyu Susilo (Migrant CARE 代表)

【担当】平野恵子 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

移住労働者送出し法制度改正および日本への技能実習生送出しに関し、意見交換をおこなった。科学研究費・基盤研究 C「現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容」(研究代表者・平野)の研究助成による。(本報告書 38 頁参照)

(研究交流または共同研究をした海外の研究者)

<ヨーロッパ>

Elizabeth Evans (ロンドン大学教授)、Kimberly Cowell-Meyers (アメリカン大学助教授)

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

Politics & Gender (アメリカ政治学会学会誌) の特集「Women's Party (女性政党)」の共同責任編集担当 (2019 年発行)。King's College London, Global Institute for Women's Leadership の web サイトにて、ブログを共著。

Diane Elson (エセックス大学社会学部名誉教授)

【担当】 大橋史恵 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

IGS セミナー「『ジェンダーと開発』を問い直す：ダイアン・エルソンとの対話」(2019 年 10 月 22 日) を開催し、ジェンダーと開発に関連する分野において研究を進めてきた若手研究者らと交え、ワークショップ型の研究交流を実施した。(本報告書 62 頁参照)

Diane Elson (エセックス大学名誉教授)

【担当】 板井広明 (IGS 特任講師)

【共同研究・研究交流の概要】

10 月 21 日(月)に武蔵大学で開催された国際シンポジウム『所得格差におけるジェンダーと階級 Intersections of Gender and Class in the Distribution of Income』にパネリストとして参加し、ダイアン・エルソン (エセックス大学名誉教授) 氏と、フェミニスト経済学について意見交換を行なった。

Gabrielle Radica (リール大学教授、横浜国立大学客員教授)

【担当】 板井広明 (IGS 特任講師)

【共同研究・研究交流の概要】

1 月 30 日に開催した IGS セミナー “A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives: Family, Society, and Gender.” に登壇してもらい、フランス 18 世紀～19 世紀における啓蒙思想家の女性論について意見交換を行なった。(本報告書 70 頁参照)

Anne Brunon-Ernst (パンテオン・アサス大学教授)

【担当】 板井広明 (IGS 特任講師)

【共同研究・研究交流の概要】

1 月 30 日に開催した IGS セミナー “A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives: Family, Society, and Gender.” に登壇してもらい、ベンサムとフーコーの比較を通して権力論に関する意見交換を行なった。(本報告書 70 頁参照)

Ophélie Siméon (ソルボンヌ・ヌーヴェル大学准教授)

【担当】 板井広明 (IGS 特任講師)

【共同研究・研究交流の概要】

1 月 30 日に開催した IGS セミナー “A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives: Family, Society, and Gender.” に登壇してもらい、19 世紀前半に活躍した A.D.ウィーラーのフェミニスト的思想について意見交換を行なった。(本報告書 70 頁参照)

(研究交流または共同研究をした海外の研究者)

Stine Willum Adrian (オールボー大学准教授)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

科研基盤 C「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(研究代表: 仙波) プロジェクトで、日本における提供精子不足の問題に関連した情報を集めるために、2019 年 9 月にデンマークのオールボー大学を訪れ、Adrian 氏から氏自身が行ってきたヨーロッパの精子バンクやドナー情報の扱いについての研究成果を含めた情報を提供してもらい、デンマークの精子バンクの現地調査の協力も得た。(本報告書 28 頁参照)

Rikke Andressen (ロスキレ大学教授)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

科研基盤 C「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(研究代表: 仙波) プロジェクトに関連して、デンマークの精子バンクにおけるドナーの情報管理や出生した子のドナー情報入手や出自を知る権利に関する問題について、コペンハーゲンの Andressen 氏宅を訪れ、情報提供を受ける。(本報告書 28 頁参照)

Kristin Engh Førde (オスロ大学ポスドクフェロー)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

科研基盤 C「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(研究代表: 仙波) プロジェクトに関連して、ノルウェーのオスロ大学を訪問し、ノルウェーにおいて提供精子で出生した人のドナー情報にアクセスする権利を保障する法律が成立した経緯について、当時の現地の新聞記事や現地の論文等、情報提供を受ける。(本報告書 28 頁参照)

Guro Korsners Kristensen (ノルウェー科学技術大学教授)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

2018 年度から始動しているノルウェー科学技術大学と IGS の二国間共同研究 (NJ_BREGED Project) の一環として、Kristensen 氏とは日本とノルウェーのファミリープランニングと出生率に関連する比較研究をすすめている。研究の成果は、二国間共同研究の成果物となる書籍 *Same but different? Comparative Perspectives on Gender Equality and Diversity in Japan and Norway* (仮題) の中の章の一つで “Public Discourses on Fertility and Family Planning in Japan and Norway” というタイトルで共同執筆の予定。(本報告書 114~117 頁参照)

Merete Lie (ノルウェー科学技術大学教授)

【担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

2018 年度から始動しているノルウェー科学技術大学と IGS の二国間共同研究 (NJ_BREGED Project) の一環として、Lie 氏とは日本とノルウェーの生殖医療とジェンダーに関連する比較研究をすすめている。研究の成果は、二国間共同研究の成果物となる書籍 *Same but different? Comparative Perspectives on Gender Equality and Diversity in Japan and Norway* (仮題) の中の章の一つで “Why egg donation has not been allowed in both Norway and Japan? Eggs and sperm are treated differently” (仮題) というタイトルで共同執筆の予定。(本報告書 114~117 頁参照)

(研究交流または共同研究をした海外の研究者)

Lesley Hoggart (オープン大学教授)

【担当】 仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【共同研究・研究交流の概要】

イギリスのオープン大学の Lesley Hoggart 氏が IGS を訪問した際、IGS の大橋史恵准教授が企画した IGS 交流研究会で、日英の中絶をめぐる状況について情報交換を行った。2020 年 1 月 24 日に IGS で開催したその研究会で Hoggart 氏は“Exploring how women’s contraceptive choices can be influenced by their views on abortion”を報告し、仙波は“Contraception and Abortion in Japan”と題して日本の状況に関して報告した。そして参加者全員でこの問題について議論した。(本報告書 84 頁参照)

<北米>

Linda Hasunuma (ブリッジポート大学助教授)

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

英文学術雑誌 *Journal of Women, Politics and Policy* (2019) に共著論文“#MeToo in Japan and South Korea : #WeToo, #WithYou,”執筆。本論文が 2020 年 1 月 Routledge 社から出版。2019 年度 JAWS (ボストン) の共同ファシリテーター。(本報告書 104~106 頁参照)

Melissa Deckman (ワシントンカレッジ教授)

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

第 9 回 JAWS (ボストン開催) にて共同でファシリテーター担当。(本報告書 104~106 頁参照)。

■ジェンダー研究所所属の研究者が研究交流・共同研究をしている海外の研究機関

韓国ジェンダー政治研究所

韓国ジェンダー政治研究所は 1999 年に設立された NPO。政治分野におけるジェンダーギャップを解消するために世論喚起、研究、ロビー活動を行っている当該分野で代表的な民間研究所。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

当研究所理事を務める。2016 年～2018 年に韓国研究財団から助成金を受託し、共同研究を実施。研究課題は「議会内政治的代表制の性差についての公式・非公式制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」。（本報告書 147 頁参照）

ソウル大学日本研究所

日本研究の活性化と日韓相互理解の増進を目標として 2004 年に設立。日本関連資料の収集、国際学術会議、学術活動事業、情報ネットワーク構築、次世代日本専門家の養成等の事業を遂行。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

学術雑誌『日本批評』海外編集委員。ならびに共同研究プロジェクト『思想と文学』共同研究員を務める。

ソウル大学国際問題研究所

ソウル大学政治外交学部設立され、外交問題や国際政治の研究に取り組む研究所。研究活動の一部として Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」を遂行。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」共同研究員。東アジアの国際関係理論におけるフェミニスト国際政治、日本研究を担当。

香港浸會大学社会科学院・文学院

2017 年度より社会科学院と文学院の連携において The Gender Studies Concentration（性別研究専修課程）を設立し、ジェンダー研究分野における教育体制を構築している。

【担当】大橋史恵（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

担当教員が社会科学院・文学院の共同プログラムであるジェンダー研究専修課程の所属教員らとのあいだで研究交流を実施している。

アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

1959 年創立で 60 以上の地域から 1700 人以上の学生が学んでいる理工系を中心とした全寮制の大学。学内公用語は英語で、当該専攻はジェンダー視点から開発の問題を研究している。

【担当】日下部京子（AIT 教授）、申琪榮（IGS 准教授）、板井広明（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】

本学ジェンダー社会科学専攻院生の AIT 派遣、AIT 院生の日本でのフィールドワーク受入による交換研修プログラム、「AIT ワークショップ」を実施し（本報告書 107～113 頁参照）、国際的な視点を持った若手研究者の育成およびアジア各国出身学生との研究交流を進めている。

(研究交流・共同研究をしている海外の研究機関)

インドネシア大学戦略的国際研究大学院ジェンダー研究センター

インドネシア国内で初めて女性学・ジェンダー研究に関する大学院を設置。研究者のみならず、政府関係者（中央、地方）、社会運動家、起業家等、多くの人材を輩出している。本研究センターは、大学院所属ジェンダー研究を専門とする教員より構成される。

【担当】 平野恵子（IGS 特任リサーチフェロー）、Sulistiyowati Irianto（インドネシア大学教授、センター員）
Mia Siscawati（インドネシア大学教員、センター長）、Shelly Adelina（インドネシア大学教員、センター員）、Ani Widyani Soetjipto（インドネシア大学教員、センター員）

【共同研究・研究交流の概要】

2008 年以降、定期的に研究交流を実施している。今年度は特に、①移住労働者送出し法制度の変更、②2019 年 4 月実施の大統領選挙、総選挙、地方自治体首長選挙、統一地方選挙における女性運動の関わりについて、情報提供を受けた。また、2020 年 1 月に実施した IGS セミナー “Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election”に Dr. Ani Widyani Soetjipto を招聘し、公開セミナーを実施した（本報告書 73 頁参照）。次年度、IGS Project Series としてブックレットを刊行する予定である。

ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター

ノルウェー最大の大学 NTNU に属する、1989 年設立の研究センター。人間関係や文化とジェンダーの関連性およびそれらの変容に着眼した、学際的なジェンダー研究に取り組んでいる。ノルウェー国内のジェンダー研究の中心拠点でもあり、国際的なネットワーク構築も積極的に進めている。

【担当】 石井クンツ昌子（IGS 所長）、小玉亮子（IGS 研究員）、吉原公美（IGS 特任 RF）、ほか

【共同研究・研究交流の概要】

2018 年 11 月の NTNU 研究者本学来訪を起点に交流が開始され、国際連携プロジェクトに実施についての協議を進めた。ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 INTPART に採択され、2019 年度より 3 年間、同助成金による共同プロジェクトを実施する（本報告書 114～117 頁参照）。

【国内外関連研究会】

○政治代表におけるジェンダーと多様性研究会（Gender, Diversity and Representation（GDRep））

〈コーディネーター〉 申琪榮（IGS 准教授）

〈メンバー〉 三浦まり（上智大学教授）、Jackie Steele（名古屋大学特任准教授）

○日本政治学会「ジェンダーと政治」研究会（申）

○「East Asian International Relations Theory」研究会（申）

○国際移動とジェンダー研究会（大橋・平野）

○現代規範理論研究会（板井）

○Transnational Commercial Surrogacy and the (Un)Making of Kin 研究会（仙波）

○国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク

ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加　ほか

2) 国際共同研究プロジェクト

ジェンダー研究所所属メンバーは、各国の研究者たちと国際共同研究プロジェクトを推進している。

プロジェクトタイトル	
東アジアにおけるジェンダーと政治	
メンバー	メンバー所属研究機関
【研究代表者】 申琪榮	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
【研究分担者】 Ah-ran Hwang	韓国釜山大学
Jinock Lee	韓国ジェンダー政治研究所
Soo-hyun Kwon	韓国ジェンダー政治研究所
三浦まり	上智大学
Jackie Steele	東京大学
Chang-ling Huang	国立台湾大学
Wan-ying Yang	台湾政治大学
研究プロジェクト概要	
東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一樣ではない。本研究プロジェクトでは、日本、韓国、台湾の民主主義の有り様と政治代表性の関係について、ジェンダー視点に立脚した国際共同研究により比較分析する。議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討する。2019 年度も成果をまとめ国内外で成果発表を行った。日本の国会議員を対象とする2度目のアンケート調査も実施した。（本報告書 18 頁参照）	

プロジェクトタイトル	
議会内政治的・代表制の性差についての公式・非公式制度要因分析 韓国・日本・台湾比較分析	
メンバー	メンバー所属研究機関
【研究代表者】 Ah-ran Hwang	韓国釜山大学
【研究分担者】 申琪榮	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
Jinock Lee	韓国ジェンダー政治研究所
Soo-hyun Kwon	韓国ジェンダー政治研究所
研究プロジェクト概要	
2016 年度から韓国研究財団から助成金を受託し共同研究を実施。研究課題は「議会内政治的・代表性の性差に関する公式・非公式制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」。ジェンダー研究所の「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクト（本報告書 18 頁参照）の韓国調査を実施。2019 年度は、成果をまとめつつ国内外で成果発表に力を入れた。	

プロジェクトタイトル	
Politics & Gender 共同編集	
メンバー	メンバー所属研究機関
【共同責任編集者】	
申琪榮	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
Elizabeth Evans	University of London
Kimberly Cowell-Meyers	American University
研究プロジェクト概要	
Politics & Gender（アメリカ政治学会学会誌）の「Women's Party(女性政党)」特集を企画し、アメリカ、イギリス、スウェーデンの研究者らと日本を含む5カ国における女性政党に関する事例研究を紹介（2019年発行）。	

プロジェクトタイトル	
科学研究費・基盤研究 C「インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合」	
メンバー	メンバー所属研究機関
【研究代表者】 中谷潤子	大阪産業大学
【研究分担者】 平野恵子	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
北村由美	京都大学
Khanis Suvianita	スラバヤ大学
研究プロジェクト概要	
本研究は、インドネシア人移住労働者の再統合について、帰還後のライフステージ構築の過程を本人や家族、コミュニティメンバーへの聞き取り調査をもとに明らかにする。2017年度～2019年度。最終年度である2019年は、国際学会 SEASIA Biennial Conference 2019（at Academia Sinica, Taipei）において共同報告を実施し、調査報告書『インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合』を刊行した。（本報告書39頁参照）	

プロジェクトタイトル	
Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	
メンバー	メンバー所属研究機関
【研究代表者】 石井クンツ昌子	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
Guro Kristensen	ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター
【研究分担者】	
申琪榮／大橋史恵／仙波由加里	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
小玉亮子	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系/ジェンダー研究所
佐野潤子	お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所
松田デレク	お茶の水女子大学国際教育センター
Priscilla Ringrose	ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター
Siri Øyslebø Sørensen	ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター
Jennifer Branlat	ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター
研究プロジェクト概要	
ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金（INTPART）による、2019～2021年度の3年間に渡る国際共同プロジェクト。お茶の水女子大学ジェンダー研究所とノルウェー科学技術大学ジェンダー研究センターの所属員が参加。家族、教育とジェンダー、生殖医療などの領域で、ノルウェーと日本の国際比較研究に取り組むほか、互いの大学に滞在しての在外研修や、修士・博士院生の共同指導、ワークショップ・セミナーの開催といった活動を進める。最終年度に研究を英語書籍として刊行する計画。（本報告書114～117頁参照）	

3) JAWS・AIT

ジェンダー研究所は、次世代ジェンダー研究者を養成するための持続的な国際研究交流ネットワークの形成にも取り組んできた。その代表的な活動が「日本—アメリカ女性政治学者シンポジウム」(Japan-America Women Political Scientists Symposium, JAWS) と「AIT ワークショップ」である。

JAWS は、政治学分野でジェンダー研究を遂行する日米の女性研究者らが、日本とアメリカで交互に集まって研究交流を行うユニークな研究ネットワークである。参加者は、互いの研究交流はもちろん、若手研究者に参加を促して国際的な視点を身につけてもらおうと共に、政治学分野でマイノリティーである若手女性研究者にメンタリングを行う。ジェンダー研究所は JAWS の活動拠点として、日本が開催地となる際は、研究集会・国際シンポジウムを主催し、成果発信にも努めている。

AIT ワークショップはお茶大の大学院前期課程「ジェンダー社会科学専攻」の院生と、タイのアジア工科大学院大学「ジェンダーと開発」専攻の院生達が、タイと日本でフィールドワークを実施しながら学び合う教育プログラムである。ジェンダー研究所は本プログラムを立ち上げた主体でもあり、現在まで派遣および受け入れの運営主体として若手研究者の国際交流に努めている。

▶ JAWS

■概要と歴史変遷

JAWS の歴史は 2000 年の夏に遡る。2000 年にアメリカン大学 (American University) のカレン・オコナー (Karen O'Connor) 教授が、同大学に「女性と政治研究所」(The Women and Politics Institute) を開設したことを記念して「女性と政治に関する比較政治学」ワークショップを主催したことがその始まりである。このワークショップに、アメリカ政治学会と日米友好基金 (The Japan-US Friendship Commission) の支援を得て日本から 5 名の研究者が招かれ、同じく招かれた 7 名のアメリカの研究者らと 3 日間にわたって研究交流が行われた。

当時、日本の政治学の分野では、女性政治学者がとりわけ少数であったのみならず、ジェンダー視点に基づいた研究は、政治学研究としてほとんど関心を持たれていなかった。これがさらに若手女性研究者を遠ざけ、「女性と政治」分野の研究が進まない原因となっていた。そんな中で始まったアメリカの研究者との交流は、日本の研究者にとって国際的な研究動向に触れることに加え、日本で女性研究者が政治学を研究するときにぶつかる様々な壁について議論する場も提供した。女性研究者の地位向上や女性研究者が行っている研究への評価という問題は、アメリカの女性研究者らにとっても共通の課題であった。

JAWS を始めたアメリカの女性研究者、M・マーガレット・コンウェイ (M. Margaret Conway)、カレン・オコナー、マリアン・パリー (Marian Palley) は、そのような女性研究者の課題に取り組んできた「女性と政治」研究のパイオニアであった。彼女らは同分野の女性研究者を励ましてサポートするだけでなく、自ら質の高い論文を政治学ジャーナルに発表することで、「女性と政治」研究を正統性のある政治学の研究として位置付けることに貢献したのである。JAWS を通じての交流により、日本の研究者とアメリカの若手研究者たちはアメリカの第一世代女性研究者らの経験を共有し、大きな励ましを得ることができた。例えば、2000 年の第 1 回 JAWS ワークショップの参加者たちは、後にアメリカ政治学会の実行委員長 Rob Hauck の協力を得て学会誌『PS: Political Science & Politics』の 2001 年 6 月号に論

文を掲載した。この掲載をきっかけに JAWS の日本参加者らは日本の政治学会でも注目されることになり、彼女らの研究も認められるようになったと回顧する。岩本美砂子（三重大学）、大海徳子（お茶の水女子大学）は福岡市で開催された 2006 年世界政治学会（IPSA）の準備委員も務めた。

このように JAWS は日本の研究者たちに、アメリカの女性研究者との交流による研究やキャリアの発展、アメリカ政治学会での研究発表、長期にわたってのメンタリングの機会を与えてくれた。アメリカの研究者にとっても、日本で研究発表を行う機会、日本の女性研究者とのネットワーク形成、若手研究者のキャリア開発へと繋がった。歴代の JAWS に参加した日米の女性研究者らは、互いの社会の相違点を認識しつつ、それぞれの場で女性研究者が直面する課題に取り組み、国際的な視点で研究を進めていく貴重な経験を得たのである。

JAWS は 2000 年から現在に至るまで、日米友好基金等の支援を得て 9 回研究集会を実施した。その概要を簡単に以下に振り返る。

第 2 回：マリアン・パリー教授（デラウェア大学,University of Delaware）が 2001 年サンフランシスコで開かれたアメリカ政治学会で「Women in Japan and the US」をテーマに企画し、12 名が参加した。

第 3 回：2002 年に日本で開催。アメリカから 3 名が参加した。三重大学、お茶の水女子大学のジェンダー研究センターで研究集会を開催した他、女性議員、地方議員、アクティビスト達に面会した。

第 4 回：2003 年、デラウェア大学とアメリカ政治学会（フィラデルフィア市）で開催され、新たに若手研究者が日本から 3 名、アメリカから 2 名加わった。この時の成果として、2004 年 1 月号の『PS : Political Science & Politics』に論文要約が掲載された。論文全文はアメリカ政治学会ウェブサイトの Special E-Symposium で公開された。

第 5 回：2007 年にジュリー・ドーラン（Julie Dolan）准教授（マカレスター・カレッジ,Macalester College）とアメリカ政治学会（APSA）の Bahram Rajaee の企画によって開かれた。APSA（シカゴ市）では「女性と外交」を題したパネルを構成した他、マカレスター・カレッジ（ミネソタ州セントポール市）で研究集会が開かれた。14 名の日米女性研究者が参加した。

第 6 回：2009 年、再び日本で開かれアメリカから 6 名の研究者が来日した。アメリカ大統領選挙に挑んだヒラリー・クリントンとサラ・ペイリンに関する研究、アメリカの少数政党における女性の役割、下院議員のスピーチ分析、医療政策と女性など最新の研究を報告した。日本の参加者も女性と地方議会、投票行動、女性議員のリクルートメント、女性国会議員に関する研究を発表した。お茶の水女子大学のジェンダー研究センターはドイツ日本研究所（German Institute for Japanese Studies）と共に東京の研究集

会を主催した。アメリカの研究者らは東京都世田谷区の生活者ネットワークを訪問、さらに富山県で行われた母親大会でも研究発表し好評を得た。

第 7 回：2010 年に、メリッサ・デックマン（Melissa Deckman）准教授（ワシントン・カレッジ,Washington College）と APSA の Bahram Rajaee の企画によってアメリカで開催された。参加者は「Gender, Politics and Policy: Post-Elections」をテーマにワシ



第 8 回 JAWS（2017 年）、お茶の水女子大学での研究交流会

ントン・カレッジ（メリーランド州）とアメリカ政治学会（Washington DC）で研究報告を行った。2010年のJAWSは日米から19名が参加し、それまでで最大規模となった。

第8回：時をおいて2017年に日本で再開された（しばらく開催されなかったのは資金上の問題と第一世代の高齢化による）。JAWSの再開を兼ねてジェンダー研究所がアメリカからジュリー・ドーランとメリッサ・デックマン（マリアン・パリー教授も来日予定だったが、悪天候により断念した）を招聘し、国際シンポジウム「なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？」を開催した。130名を超える多くの聴衆が集まり大盛況だった。このほか、東京都議会訪問や、JAWSの新旧メンバー、ジェンダー研究所の研究者、お茶大の院生らとの研究交流も行った。この時の成果は2018年刊行の『ジェンダー研究』21号の特集「Gender and Political Leadership」に掲載された。

アメリカ政治学会におけるJAWS HP→<https://connect.apsanet.org/jaws/>



第8回JAWS（2017年）、東京都議会訪問

■JAWS 2018 年度成果

2018年 JAWS（第9回） 「ジェンダーと民主主義」 “Gender and Democracy”

（8月28日～31日、マサチューセッツ州、ボストン）

2018年、第9回JAWSがアメリカ政治学会の協力を得てボストンで4日間開催された。ボストン市にあるサフォーク大学のローゼンバーグ東アジア研究所は、研究集会の場所とレセプションを提供してくれた。今年から第一世代のJAWSメンバーは引退した形となり、申瑛榮（ジェンダー研究所）、メリッサ・デックマンが引き続きファシリテーターとして参加した以外は、全員新しいメンバーが参加した。

今回はリンダ・ハスヌマ（Linda Hasunuma）（ブリッジポート大学, University of Bridgeport）と三浦まり（上智大学）が加わり、アメリカ政治学会の国際交流担当のAndrew Stinsonの協力も得て、アメリカ政治学会と日本政治学会から、若手女性研究者に参加を呼びかけた。最終的に日米からそれぞれ若手研究者を6名ずつ、計12名を選抜した。

テーマは「ジェンダーと民主主義」（Gender and Democracy）として、4名のファシリテーターが初日にレクチャーをすることで始まった。12名の参加者は研究セッションとアメリカ政治学会パネルで、女性運動、女性の政治参画、トランスナショナルな女性連帯、リーダーシップ、政治参加のジェンダーギャップなどについて研究発表を行った。そのほか、キャリア形成、メディアと研究発信、論文の出版などについて議論するセッションも設けた。女性の政治参加に関する大規模な研究を支援している「Barbara Lee Foundation」も訪問し財団の活動についてうかがった。（具体的なスケジュールは

<https://mk0apsaconnectbvy6p6.kinstacdn.com/wp-content/uploads/sites/22/2019/02/2018-JAWS-detailed-schedule.pdf>）

■JAWS 2019 年度成果

JAWS 2018年の参加者らがアメリカ政治学会で発表した論文をさらに発展させ、アメリカ政治学会の学術雑誌「PS」に投稿した。その内4名が採択され掲載予定である。また、JAWS 2020年（日本）に向けて、アメリカ政治学会のコーディネーターと協力して資金申請に取り組んだ。

▶ AIT

■国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」概要

開発とジェンダーの問題を海外で実践的に研究するプログラム

18 年目を迎える国際教育交流プログラム

AIT ワークショップは、ジェンダー研究所と、タイのアジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology (AIT)）とにより実施されている、国際教育交流プログラムである。

2001 年に、ジェンダー研究センター（現ジェンダー研究所）所属教員と、AIT「ジェンダーと開発」専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められ、2004 年には、本学と AIT との間で大学間学術交流協定が結ばれた。以降、協定に基づき、タイ AIT で実施されるワークショップへの本学博士前期課程院生を主とする派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、大学院生を主体とした研究交流事業をほぼ毎年実施している。

2012 年度からは、AIT ワークショップ・プログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」を国内事前研修として取り入れ、本年で 18 回目を迎えた。

グローバルなフィールドでの理論的検討と実践的学習

本教育プログラム（「国際社会ジェンダー論演習」）の目的は、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査の基礎を、実践的に学習することにある。

大学院講義の事前学習（関連機関での調査）、調査して得た知見の英語によるプレゼンテーション、報告書作成という一連の調査研究の研修を通して、修士論文作成のための技能を習得する。加えて、英語によるインタビュー、プレゼンテーション、論文執筆の訓練機会にもなる。

このような充実したプログラムを通して、参加者は開発の問題をジェンダー視点から考察することの意義を皮膚感覚と理論的観点からより深く把握することができるようになる。また AIT に集まるアジア各国の院生の熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから刺激を受け、研究手法や語学のブラッシュアップへの動機づけを得る。その結果、研究者としての議論の組み立て方や調査方法、研究アプローチについて際立った効果が参加者には見られるのであり、本プログラムは比類のない教育効果をもっていると言える。

■AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development ジェンダーと開発
2002	Gender, Work and Globalization ジェンダー、労働、グローバリゼーション
2003	Women, Globalization and Home-based Work 女性、グローバリゼーション、在宅労働
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand タイにおける女性移動労働者の権利 【協定締結】
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women タイにおけるジェンダーと開発：労働者の権利と女性に対する暴力
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment ジェンダー、権利、エンパワメント
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives ジェンダー視点によるタイ・日本相互研究
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis ジェンダーと政策：タイと日本の相互分析を通して
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan ジェンダーと社会改革：タイと日本の比較分析
2011	Gender and Disaster ジェンダーと災害〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality セクシュアリティ
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution グローバル・ジャスティス：女性の健康と売春
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment 1) セクシュアリティ、2) ジェンダーと貧困、3) 教育とエンパワメント
2015	Labor, Sexuality and Empowerment 労働、セクシュアリティ、エンパワメント
2016	Labor and Association from Gender Perspective ジェンダー・パースペクティブから見た労働と組織
2017	Sexual minority and migrant workers from gender perspectives ジェンダー視点から見たセクシュアル・マイノリティと移住労働者
2018	Power and Sexuality from Gender perspectives ジェンダー・パースペクティブから見た権力とセクシュアリティ
2019	Gender and Empowerment in Urban Space 都市空間におけるジェンダーとエンパワメント

■履修生の卒業後の軌跡

AIT ワークショップでの経験から留学・就職そして現在まで

大類 由貴

2015 年度 AIT ワークショップ履修生

勤務先：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

2015 年度に参加した AIT ワークショップは、その後 AIT へ留学する大きなきっかけとなりました。AIT ワークショップではタイをフィールドに、国際機関や NGO にインタビュー調査、AIT の授業受講と AIT の学生達と自分の研究テーマを発表し合いました。1 週間という短い期間でしたが、英語でのインタビュー調査やプレゼン、AIT の教授や学生との議論は、私にとって大変貴重な経験となりました。

特に、AIT の授業で同世代の学生達が活発に議論している姿や自分とは異なる問題意識を持っている点に、大きな差を感じ衝撃を受けました。それと同時に、将来開発とジェンダーの分野で働きたいと考えていた私にとって、日本の中から開発とジェンダーの問題を見ることに違和感を感じました。このことがきっかけで AIT への留学を考え始めました。AIT では、開講されている科目も幅広く、専門知識をさらに深め、自分の研究の可能性を広げていける環境が整っている点に大きな魅力を感じました。また、タイだけでなく、東南アジアや南アジア、東アジアなど様々な国籍、バックグラウンドを持つ学生達と議論し切磋琢磨することにより、多様な視点、国際的な視点や学術的な視点を身につけることができると考え、AIT への留学を決意しました。

10 ヶ月の留学では、授業を受講しつつ、研究調査プロジェクトへの参加や自分の研究の調査も実施しました。授業では、開発とジェンダーには欠かせない基礎的な論文を用いてじっくりと理論が学ぶことができただけでなく、実際にフィールドワークやグループワークで学んだ理論を実践に生かす機会がたくさんありました。この点が AIT で学ぶ特徴の 1 つだと思います。また、1 つのテーマに関して様々な国籍の学生と議論することで幅広い視点を持つことができたことや、すでに国連や NGO での勤務経験があるクラスメイトも多かったことから、彼らの豊富な経験や知識からの学びも大きかったです。授業以外では AIT の日下部先生とともに研究調査プロジェクトに携わり、タイの北部のチェンライにある山奥や東北部のシーサケットにある農村部でのインタビュー調査と報告書作成を担当しました。この調査経験が実際に自分の研究でのインタビュー調査や論文執筆に役に立ったと感じています。研究面では、AIT の卒業生が務める NGO への訪問とワークショップに参加させていただいたご縁で、実際に調査地が決定したこと、研究テーマに関する知識だけでなくテーマに関するタイでの現状についても現場レベルで知ることができ、研究の視野が広がりました。AIT での学び、経験がなければ修士論文を完成させることはできなかったと思います。

卒業後は、ジェンダーと開発はもちろん教育やアジアと関わることをできる仕事に就きたいと考え、現在の勤務先に運良く就職することができました。日々新しいことに刺激を受けると同時に自分の知識や能力不足を痛感しています。まだまだ AIT で学んだことを十分に活用できている状態ではありませんが、お茶大そして AIT を離れても自分の専門性を日々高めていく努力と専門性を活かせる機会で存分に発揮できるよう励んでいきたいです。

最後に、留学中にいつも温かく見守っていただき、親身になって相談にのってくださった AIT の日下部先生、留学中から卒業まで丁寧なご指導と明確なアドバイスでご指導していただいた申先生、いつも励まし合い支えてくれたお茶大そして AIT のクラスメイトに心より感謝申し上げます。

■ 2019 年度 AIT ワークショップ実施概要

「都市空間におけるジェンダーとエンパワーメント」をテーマに実施

【概要】

2019 年度の AIT ワークショップは、「都市空間におけるジェンダーとエンパワーメント」をテーマに、国内事前研修（4/10～7/24）、AIT からの参加院生 2 名の受入（6/27～7/4）、タイ AIT での研修（8/25～9/1）、研修報告会（11/27）、報告書作成というプログラムで行なわれた。

本学からの参加者は 7 名（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻）。国内事前研修として、大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」を履修したほか、AIT 院生来日研修時には、共同での国内フィールドワークや研究報告会に参加し、研究交流を行った。タイ研修では、同時期に AIT を訪問していた名古屋外語大学の学生と合流してのフィールドワークも日程に組み入れ、例年と同様に、参加院生の研究に関連する多くの機関を訪問することができた。コーディネーターとして本学ジェンダー学際研究専攻院生が関わり、フィールドワーク方法論担当講師と協力してプログラムの企画運営を担当したほか、履修生の報告会にはジェンダー研究所特任講師が参加した。

【プログラム統括】板井広明（ジェンダー研究所特任講師）

【国内事前研修担当講師】高松香奈（国際基督教大学准教授）

【コーディネーター】高橋加織（博士後期課程ジェンダー学際研究専攻）

【履修生】

田中涼子（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース）

侯 婷玉（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース）

宋 怡（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース）

大竹あすか（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース）

譚 穎（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発ジェンダー論コース）

畢 新雨（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発ジェンダー論コース）

長谷川渚紗（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発ジェンダー論コース）

【AIT からの研修生】

Meheri Tamanna（博士課程）

Lan Thi Nguyen（博士課程）



Thai Transgender Alliance (TGA) にて
(2019 年 8 月 28 日)

■ 2019 年度 AIT ワークショップ研修報告

国内事前研修

2019 年度の AIT ワークショップは「都市空間におけるジェンダーとエンパワーメント (Gender and Empowerment in Urban Space)」をテーマに、博士前期課程ジェンダー社会科学専攻の 7 名が参加した。ワークショップのコーディネーターを担ったのは高橋加織 (博士後期課程ジェンダー学際専攻) である。

大学院科目での国内事前研修は 4/10 (水) ～7/24 (水) に全 15 回行なわれた、高松香奈講師 (国際基督教大学准教授) による「フィールドワーク方法論」である。①講義 (理論的枠組み)、②ケーススタディの討論、③聞き取りの練習 (key informant interview)、④最終プレゼンテーションという形で、最終的にリサーチプロポーザルを完成させる構成であり、フィールド調査とは何かといった点に始まり、文献調査の方法や参考文献をケーススタディとしながら、調査倫理などについてもディスカッションなどを通して理解が深められた。

研究交流研修

6/27 (木) ～7/4 (木) には、Meheri Tamanna (博士課程) と Lan Thi Nguyen (博士課程) の 2 名が AIT から来日して研修を行なった。IGS を含めたお茶大内の施設訪問、斎藤教授との面談、NPO Rainbow Community "coLLabo" 訪問やインタビューなどを行なった。

8/25 (日) ～9/1 (日) は本学の院生 5 名がタイにある AIT での研修にのぞんだ。タイに滞在中は、Central Thailand Mission、Thai Transgender Alliance、Forward Foundation、WeTrain/APSW、Marketing Organization for Farmers、SWING Foundation を訪問・調査し、AIT の授業「Gender and Development: Principles and Concept」や、「お茶大—AIT ジョイント・セミナー」で研究報告などをこなした。

研修報告会

11/27 (水) 12 時 20 分～13 時 30 分には板井広明ジェンダー研究所特任講師の司会のもと、AIT での研修に関する参加者報告会を開いた。参加院生 7 名が前期に受講した「フィールドワーク方法論」で書いたプロポーザルに沿って、タイ現地でのフィールドワークについて、報告が行なわれた。今回は 7 人参加ということもあって、それぞれの研究関心に合う施設ばかりではなかったが、訪問した各施設などでのフィールドワークは研究の進展に大いに刺激になったようである。また AIT のクラスやジョイント・セミナーを通じて、同世代の AIT の学生とのディスカッションでは、さまざまな研究アプローチについての知識や知見を得られ、かつ活発な議論が行なわれたようである。

研修報告会での報告をもとにして、現地での調査や授業風景などの画像、現地情報などを取り入れた報告書を 2020 年 2 月に完成させた。

◇AIT 生来日研修（6/27～7/4）

実施日	内容
6/27	成田到着 お茶の水女子大学訪問（ジェンダー研究所、グローバルリーダーシップ研究所、歴史資料館、グローバル協力センター） 歓迎会
6/28	ホームレス・貧困層の支援団体訪問と職員へのインタビュー（NPO もやい、ことぶき学童保育）
6/29	映画“Major（メジャーさん）！”（アメリカのトランスコミュニティの運動を描いたドキュメンタリー）鑑賞 会場：東京ウィメンズプラザ クィア・マガジン『OVER』創刊記念イベント参加： 明治大学リバティータワー
6/30	レズビアン及び性的少数者を支援しているNPO Rainbow Community "coLLabo" 訪問 『L・セクマイ女性Xカミングアウト～未来のじぶん』（カミングアウトをテーマとしたプログラム）に参加： ESCENA OTA（大田区立男女平等推進センター）
7/1	斎藤悦子教授との面談（お茶の水女子大学本館3階315室）
7/2	フィールドワーク（浅草）
7/3	「フィールドワーク方法論演習」での発表 『OVER』編集長 宇田川氏と意見交換：Seattle Espresso Café お別れ会
7/4	帰国

◇AIT ワークショップ履修生タイ研修日程（8/25～9/1）

実施日	内容
8/25	AIT到着
8/26	AIT一日体験：「ジェンダーと開発」「公共政策」「開発と持続可能性」などのクラスに参加。 歓迎会 
8/27	お茶大- AIT Joint Seminar：研究報告 アユタヤ観光
8/28	Central Thailand Mission（貧困層などの生活支援団体）と、Thai Transgender Alliance（トランスジェンダー支援団体）への訪問（事業説明、現地見学、インタビュー） 
8/29	Forward Foundation（バンコクにあるスラム地区で住民支援を行う団体）訪問、WeTrain/APSW訪問（事業説明、現地見学、インタビュー）
8/30	Marketing Organization for Farmers（MOF、公正な取引と生産者へのテナントを提供している団体）訪問（事業説明、現地見学、インタビュー） SWING Foundation（性産業従事者や性的少数者の健康・教育・人権保護支援団体）訪問（事業説明、現地見学、インタビュー）
8/31	バンコク市内フィールドワーク（Bangkok Farmer's Marketほか）
9/1	帰国

4) INTPART プロジェクト

国際的比較研究とその最新成果を研究教育に応用する国際共同事業

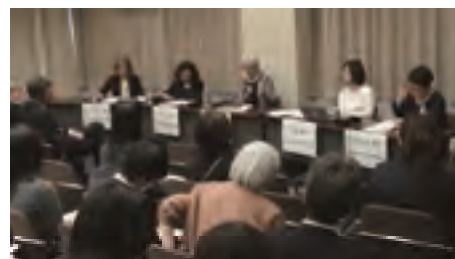
■概要

INTPART プロジェクトとは、正式には、ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 International Partnerships for Excellent Education, Research and Innovation (INTPART) による、Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) プロジェクト。ノルウェー科学技術大学 (NTNU) のジェンダー研究センターと IGS とで、2019～2021 年度の 3 年間にわたって、教員・研究者・院生の相互派遣および、ノルウェーと日本のジェンダー平等、ダイバーシティについての比較研究、研究教育、セミナーやワークショップの開催などを進め、最終的には事業成果を書籍として刊行することを目指としている。

■パートナーシップ構築の経緯

NTNU ジェンダー研究センターと IGS とのパートナーシップの構築は、2016 年秋に、ノルウェー大使館の仲介による交流の開始を起点としている。2017 年 4 月の NTNU 代表団の来日の機会に、ジェンダー研究者であり代表団の長でもあった、カリ・メルビー (Kari Melby) 副学長 (国際交流担当) (肩書は当時) と、センター所属教員であるプリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) 教授、グロ・クリステンセン (Guro Kristensen) 准教授 (肩書は当時) をゲストスピーカーに迎えての国際シンポジウム「最も幸せな国のジェンダー平等：ノルウェーのジェンダー研究とファミリー・ライフ・バランス」を本学にて開催した。これを契機に、両研究機関の共同プロジェクト実施についての具体的な検討を開始すると同時に、本学と NTNU の大学間協定締結に向けた協議も国際交流担当により進められた。

同年 9 月には、本学から、佐々木泰子国際担当副学長、石井クンツ昌子 IGS 所長、佐野潤子・吉原公美 IGS 特任リサーチフェローが NTNU を訪問し、大学間協定の調印式および共同プロジェクト準備会議が行われた。準備会議においては、両研究所において実施されている研究についての情報交換および INTPART への共同申請にむけての具体的な話し合いがもたれた。INTPART 助成金の申請書類提出は 2018 年 4 月。その審査結果を待つ間も共同研究プロジェクトの具体的なテーマについての協議が進められ、同年 11 月には、NTNU のジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) 研究員とクリスティン・オイガルドシリア (Kristine Øygardslia) 研究員が本学を訪れ、INTPART プロジェクトに向けた 2 回目の準備会議を開催。12 月に助成金の採択が決定し、2019 年 4 月より本プロジェクトが開始された。



2017 年 4 月 25 日国際シンポジウム



NTNU オンライン新聞記事 2017 年 9 月 26 日
「NTNU、日本の女子大学との提携を開始」

■プロジェクトメンバー

《NTNU》

グロ・クリステンセン（教授：プロジェクトマネージャー）

ジェニファー・ブロンラ（ポストドク研究員：プロジェクトコーディネーター）

プリシラ・リングローズ（教授）

シリ・エイスレボ・ソレンセン（Siri Øyslebø Sørensen）（ジェンダー研究センター長・准教授）

《IGS》

石井クンツ昌子（IGS 所長：本学側代表・コアメンバー）

小玉亮子（IGS 研究員／基幹研究院人間科学系教授：コアメンバー）

申琪榮（IGS 准教授：コアメンバー）

大橋史恵（IGS 准教授）

仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

佐野潤子（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

松田デレク（国際教育センター講師）

吉原公美（IGS 特任リサーチフェロー：事務局）

■プロジェクト構成（相互に連携する 6 つのワークパッケージ（WP））

WP1 プロジェクト管理

NTNU のプロジェクトマネージャーとプロジェクトコーディネーター、本学側の代表と事務局担当者が中心となって、プロジェクト活動を調整・管理し、高水準の生産性と創造性を担保する。

WP2 在外研修

本プロジェクトの柱のひとつであり、両大学の博士前期・後期大学院生がパートナー大学に滞在しての在外研究・調査、教員・研究者の派遣による教育交流および在外研究・調査を行う。

WP3 院生共同指導

NTNU とお茶の水女子大学の教員が、大学院生の研究プロジェクトの共同指導を行う。共同指導対象となったプロジェクトには WP 2 の在外研究を行う機会が与えられ、その研究を発展させた新規研究プロジェクトを計画し研究助成金申請を進めることが期待されている。

WP4 合同カリキュラム開発と交換教育

特に NTNU 側における本プロジェクトの目標の 1 つは質の高い研究に基づく教育プログラムを開発することである。WP2 および WP3 での本学との研究教育交流は、国際的視点を重視するあらたなカリキュラム構築に寄与する。

WP5 共同出版と年次ワークショップの開催

本プロジェクトの学術的成果を書籍出版する。ノルウェーと日本の研究者（教員と博士課程院生）が執筆に参加し、刊行プロジェクトと関連したワークショップを年次開催する。

WP6 広報・成果普及とセミナー開催

広報・成果普及計画は幅広いアウトリーチ活動が含まれており、既存の研究者ネットワークや、大学や研究所ウェブサイトなどの広報媒体を活用するほか、両機関の研究者が参加するセミナーを年次開催し、関連分野の研究者や市民に公開する。

■2019 年度事業内容

①年次セミナーとワークショップの開催

【開催期間】 2019 年 9 月 17 日（火）～20 日（金）

【開催地】 NTNU Dragvoll キャンパス

【本学参加者】 石井クンツ昌子、申琪榮、小玉亮子、吉原公美

【本学院生参加者】 松田こずえ（博士後期人間発達科学専攻・INTPART 院生在外研修）
下川自子（博士前期ジェンダー社会科学専攻・INTPART 院生在外研修）

【スケジュールと各セッションの内容】

9 月 17 日（火）	ジェンダー研究教育についてのセミナー
Session 1:	両大学のジェンダー研究教育に関するセミナー（報告：クリステンセン、申）
Session 2:	研究報告 ブロンラ「A Pedagogy of Unlearning: Threshold Learning in Gender Studies」
Session 3:	教育ツール Perusall の紹介 (https://perusall.com/)
Session 4:	学生および研究者の在外研修（Mobility）についての報告と協議
9 月 18 日（水）	共同研究とアンソロジー出版についてのワークショップ
Session 1:	アンソロジーエディターミーティング（リングローズ、クリステンセン、石井）
Session 2:	ゲストレクチャー 仙波「Abolition of Gamete Donor Anonymity」（石井代読）
Session 3:	共同研究についての会議
Session 4:	アンソロジープロジェクト会議
9 月 19 日（木）	INTPART プロジェクト会議（お茶大メンバー）
Session 1:	お茶大院生の NTNU 在外研修についての視察と聞き取り
Session 2:	INTPART プロジェクト会議
9 月 20 日（金）	今後の事業展開に向けたミーティング
Session 1:	アンソロジーエディターミーティング
Session 2:	NTNU 学内誌の取材
Session 3:	NTNU 院生とのミーティング

②本学研究者の在外研究・調査

- ・申琪榮：9/12～15 ベルゲン、9/21～23 トロンハイムにて、ノルウェーにおける政治とジェンダー、若者の政治参画について調査（ベルゲン大学、NTNU、トロンハイム地方議会）。
- ・小玉亮子：9/20 トロンハイム、9/21～23 オスロにて、ノルウェーにおける幼児教育とジェンダーについて調査（トロンハイム市内幼稚園、クイーン・モード大学、オスロ子ども図書館、オスロ大学）。

③本学院生の在外研修

- ・松田こずえ：9/16～20 トロンハイム、9/21～23 オスロにて、ノルウェーにおける幼児教育とジェンダーについて調査（トロンハイム市内幼稚園、NTNU、クイーン・モード大学、オスロ子ども図書館、オスロ大学）。
- ・下川自子：8/24～9/19 トロンハイムにて、ノルウェーにおける DV 被害者保護・支援について調査。「ジェンダーとノルウェーの文化」の講義に出席し、ノルウェーのジェンダー状況について学習（NTNU、トロンハイムクライシスセンター、オラビス病院、ヨーロッパ DV 学会）。

④NTNU 研究者の在外研究・IGS セミナーの開催

フランス・ローズ・ハートライン (france rose hartline) (ドクター院生)：10/7～11/7。本学大塚ハウスに滞在し、IGS 提供の研究室を拠点に、日本のトランスジェンダーをめぐる状況に関する研究・調査を行った。アドバイザーを務めた石丸径一郎准教授（人間発達科学専攻発達臨床心理学領域）との共同研究計画の立案がされたほか、10/24 には本学院生・研究者を対象とした IGS 英語セミナー「Legal Gender Recognition & Messy Trans Experiences in Norway」の講師を務めた（本報告書 64 頁参照）。

⑤NTNU 修士院生の在外研修

マルテ・ベルグ (Marte Berg)、シリエ・スヴェニユンセン (Silje Svenningsen)、スーザン・アンデシェン (Susann Andersen)：7/18～8/15。本学国際学生宿舎に滞在し、サマープログラムへ参加し、日本のジェンダー、ダイバーシティ状況について学んだほか、フィールドワーク方法論授業内で、それぞれの修士論文研究についてのプレゼンテーションを行うなど、本学院生との研究交流の機会を持った。

⑥プロジェクト会議の実施

- ・本学の INTPART メンバーが出席するプロジェクト会議を月例で開催。
- ・NTNU のメンバーとのテレビ会議を四半期ごとに開催。

■2019 年度事業成果

準備期間も含め、両大学のメンバーは頻繁にメールのやり取りをし、4 半期ごとにテレビ会議を実施するなどして事務業務関連の連絡を密にしていたが、9 月の NTNU 訪問の機会にメンバーが一堂に会して話し合うことにより、プロジェクトの基礎を固めるという大きな成果が得られた。合わせて、NTNU のメンバーのジェンダー研究・教育に向ける熱意に直接触れることができた感慨は大きく、本共同プロジェクトが、お茶大の教員・研究者・院生に刺激となり、より優れた研究教育の成果につながるであろうことを実感した。



9 月 20 日 NTNU 院生とのミーティング

本プロジェクトはノルウェーと日本の比較を主眼にしているが、それは決して国際指標などを基準にして優劣を判断するものではなく、文化・社会的な相違や相似などを考慮した総合的な視点によるものにするという理解が、セミナーやワークショップにおいて確認された。これは、本プロジェクトの知見面での方向性を定める重要なステップである。合わせて、今後の事業展開のための充実した協議が持たれ、ノルウェーと日本それぞれのジェンダー平等に関するテキストを含めた共有リーディングリストの作成や、アンソロジー刊行のスケジュール、比較研究プロジェクト編成など、着実なプロジェクト推進のための具体的な方策が示された。

NTNU 院生の在外研修受け入れに際しては、サマープログラムを担当する国際教育センターのスタッフと石丸准教授に、本学院生の派遣に際しては、事前指導を引き受けてくださったジャン・バーズレイ特別招聘教授に、ノルウェー調査にあたっては様々な知見の提供をしてくださった現地の専門家の方々など、多くの方のご協力を得て充実した内容の研修を実現することができた。

2020 年度も、2019 年度成果を発展させる形で、本プロジェクトの充実を図る所存である。

5) 国内外招聘研究者一覧

■ 2019 年度 海外からの招聘研究者

【アジア・オセアニア】

游鑑明 (ユウ・カンメイ) (中央研究院近代史研究所・台湾)

国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

ハン・インテク (済州平和研究院・韓)

IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)

ソン・ジョンウク (済州平和研究院・韓)

IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)

ハン・ドンギョン (済州平和研究院・韓)

IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)

チェ・ヒュンジョン (済州平和研究院・韓)

IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)

ド・ジョンユン (済州平和研究院・韓)

IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)

アニ・ウィダヤニ・スチプト (インドネシア大学・インドネシア)

IGS セミナー「Gender and Politics in Indonesia after 2019 Election」(73 頁参照)

【ヨーロッパ】

ダイアン・エルソン (エセックス大学・英)

IGS セミナー「Gender and Development Revisited」(62 頁参照)

フランス・ローズ・ハートライン (ノルウェー科学技術大学・ノルウェー)

INTPART プロジェクト (114~117 頁参照)

IGS セミナー「Legal Gender Recognition & Messy Trans Experiences in Norway」(64 頁参照)

ガブリエル・ラディカ (リール大学・仏)

IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

アン・ブルノン＝エルンスト (パンテオン・アサス大学・仏)

IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

オフエリ・スイミオン (ソルボンヌ・ヌーヴェル大学・仏)

IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

レスリー・ホガート (オープン大学・英)

IGS 研究会「Exploring How Women's Contraceptive Choices Can Be Influenced by Their Views on Abortion」(84 頁参照)

【北米】

ジャン・バーズレイ (ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米)

特別招聘教授 (87~92 頁参照)

国際シンポジウム「哲学者と皇太子妃」(47 頁参照)

国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

IGS セミナー「冷戦初期の日本におけるファッションショー外交」(56 頁参照)

ジュリア・ブロック (エモリー大学・米)

国際シンポジウム「哲学者と皇太子妃」(47 頁参照))

スーザン・ストライカー (イエール大学・米)

国際シンポジウム「トランスジェンダーが問うてきたこと」(50 頁参照)

IGS 研究会「トランスジェンダーが問うてきたこと」(83 頁参照)

ナエル・バンジー (トレント大学・カナダ)

国際シンポジウム「トランスジェンダーが問うてきたこと」(50 頁参照)

IGS 研究会「トランスジェンダーが問うてきたこと」(83 頁参照)

■ 2019 年度 国内招聘研究者

北村文 (津田塾大学) 国際シンポジウム「哲学者と皇太子妃」(47 頁参照)

ゲイ・ローリー (早稲田大学) 国際シンポジウム「哲学者と皇太子妃」(47 頁参照)

清水晶子 (東京大学) 国際シンポジウム「トランスジェンダーが問うてきたこと」(50 頁参照)、IGS 研究会「トランスジェンダーが問うてきたこと」(83 頁参照)

井谷聡子 (関西大学) 国際シンポジウム「トランスジェンダーが問うてきたこと」(50 頁参照)、IGS 研究会「トランスジェンダーが問うてきたこと」(83 頁参照)

星野幸代 (名古屋大学) 国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

大濱慶子 (神戸学院大学) 国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

江上幸子 (中国女性史研究会／フェリス学院大学) 国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

前山加奈子 (中国女性史研究会／駿河台大学) 国際シンポジウム「踊る中国」(53 頁参照)

菅野摂子 (立教大学社会福祉研究所) IGS セミナー「生殖医療技術と男性性」(58 頁参照)

斎藤圭介 (岡山大学) IGS セミナー「生殖医療技術と男性性」(58 頁参照)

山尾忠弘 (慶應義塾大学・院) IGS セミナー「J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権」(60 頁参照)

村田陽 (同志社大学) IGS セミナー「J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権」(60 頁参照)

平石耕 (成蹊大学) IGS セミナー「J.S.ミルにおけるデモクラシーと女性参政権」(60 頁参照)

中村雪子 (和光大学ほか) IGS セミナー「Gender and Development Revisited」(62 頁参照)

渡辺浩 (東京大学) IGS セミナー「日本における女らしさの表象」(66 頁参照)

菅野 琴 (関西学院大学／国立女性教育会館) IGS セミナー「持続可能な社会をめざすエンパワメントの教育」(68 頁参照)

深貝保則 (横浜国立大学) IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

関口佐紀 (早稲田大学) IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

重田園江 (明治大学) IGS セミナー「A Workshop on the History of Ideas from French Perspectives」(70 頁参照)

永見瑞木 (大阪府立大学) IGS セミナー「コンドルセの政治社会像と女性への視点」(78 頁参照)

三牧聖子 (高崎経済大学) IGS 研究会「Shared Visions for Korea-Japan Relations」(80 頁参照)